

全国統一をどうとらえるか

静岡県公立中学校教諭

歴史

1 はじめに

この単元「信長・秀吉による全国統一」の取扱については、信長・秀吉による統一事業により中世末期の混乱が収束され、新たに近世への出発点として捉えることができる。

しかし、ただの歴史上の「つなぎ」の時として捉えるのではなく、なにがどのようなことによって変わっていき、どうなったのかをきちんと生徒に考えさせることが大切である。

では、どのように授業を展開していくかであるが、信長・秀吉の統一事業を一気に推し進めることを可能にしたものが、戦国時代の「南蛮貿易」にあることに気付かせ、外交でも文化でも積極的な動きが見られたことに注目をさせたい。また、信長・秀吉が政治的に長けていた点にも、二人の政策の面から生徒に考えさせたい。そのために、授業の構成を以下のように考えた。

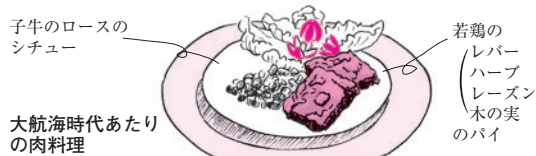
- ① ヨーロッパ人の世界進出のねらい
- ② 日本人とヨーロッパ人との出会い
- ③ 織田信長による統一事業
- ④ 豊臣秀吉による統一事業
- ⑤ 統一事業と南蛮貿易がもたらした文化

この5時間の構成により「全国統一」のとらえ方を生徒に考えさせたい。

では、それぞれの授業についてのポイントと、生徒にどのように考えさせていくかを考えたい。

2 ヨーロッパの世界進出と日本

授業構成の中で①の時間にあたる授業案において大切なことは、「ヨーロッパ人の来航」の背景について、新航路の開拓を中心に取り扱うことである（学習指導要領でも宗教改革については深入りしないことが明記されている）。では、なぜ新航路の開拓に至ったかを考えさせたい。



Q 肉料理の味付けに欠かせない物は何だろう？

当時のヨーロッパ人の食生活に欠かせない物が「香辛料」であること。また、香辛料は中継ぎ貿易により大変高価であったため、直接アジアへの貿易ルートがほしかったことに気づかせたい。そのための新航路開拓の様子を調べ学習にしていきたい。

例



パスコ＝ダ＝ガマ

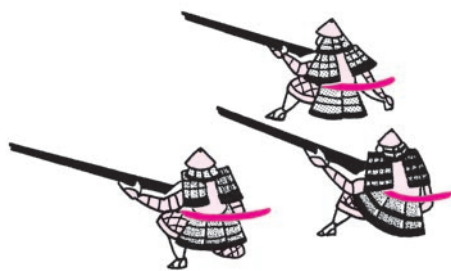


マゼラン

Qこの二人の新航路開拓の様子を調べよう！
また、宗教改革についても教科書での扱いは、生徒にまとめさせたい。

②の授業について大切なことは、日本人がヨーロッパ人と出会ったことによりその後の社会にどのような影響をもたらしたかである。

そのため、授業の導入にあたり「火縄銃」を提示しても良いと思う。



火縄銃

そして、その背景について前時の復習をおこなうと効果的である。また、下の「南蛮屏風」を提示し、「南蛮貿易」当時の様子を考えさせたい。



「中学生の歴史 初訂版」p.88

3 信長・秀吉による統一事業

授業構成の③と④について一番大切なことは、学習指導要領でも明記されているとおり、個々の戦国大名の名前や合戦名を網羅的に扱

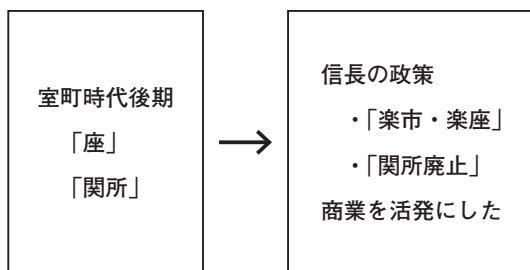
うのではなく、これまでの時代との違いを、「どこがどう変わったのか」生徒に考えさせ、理解させることである。

そのためにも、③の授業では、室町時代の経済について、復習をする時間がほしい。

室町時代後期は、公家や寺社から保護を受けた「座」の存在や、幕府や寺社の「関所」の存在により、経済の発展がさまたげられた時代であることをもう一度確認しなくてはいけない（教科書p.75）。そのうえで、③の授業内容に入っていきたい。

信長の行った経済政策については、「座」と「関所」をポイントに調べ学習を行い室町時代の後期から信長はなにを行い、どう変わったのかをきちんと調べるのが大切である。

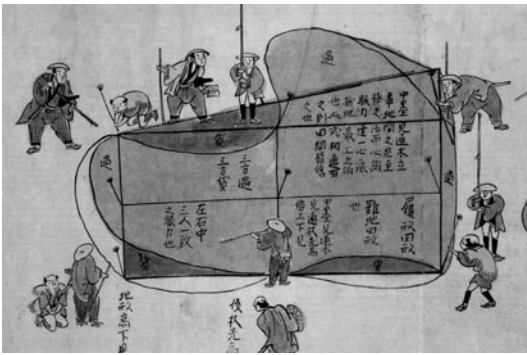
前時の学習で登場した「火縄銃」についても、信長の外交政策である南蛮貿易（ヨーロッパ人との出会い）により、信長が力を伸ばしていったことに気づかせたい。



※信長がただ単に戦いに強かったのではなく、経済を活発にし、力をつけていったことに注目させる。

④の授業では、信長の後を引き継いだ秀吉が行った政策を次の時代（江戸時代）の繋ぎになる政策であると捉えたい。

秀吉の行った政策のうち、「太閤検地」については、教科書p.86や下の図を参考に「検地」の目的を考えさせたい。



「中学生の歴史 初訂版」p.96

また、「刀狩令」についても同様に目的を考えさせたい。

そのうえで、「兵農分離」が推し進められ、次の時代（江戸時代）の身分社会へと繋がっていくことを理解させなければならない。

この時間のまとめとして、教科書p.86～87タイムスリップの作業をすすめ、知識の定着を図りたい。



「中学生の歴史 初訂版」p.86～87

4 文化の扱いについて

⑤の授業案については、学習指導要領にもあるとおり、南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将・豪商の経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生み出されたという、時代の反映が見られることに気づかせなければならない。

そのための導入として、甲斐の武田家館と

安土城や姫路城を生徒たちに見比べさせ、この時代の文化の特徴をつかむきっかけにしたい。



姫路城（播磨平野にある代表的な平山城）
「中学生の歴史 初訂版」p.98

Q城は、どのように変化したのか？

文化の学習の中で豪華で華麗な文化を可能にした背景を考えさせなければならない。そのためには、①～④の授業の中での学習が文化の学習につながらなくてはならない。

①・②からヨーロッパの影響（南蛮貿易）がもたらした南蛮文化。③・④から城の発達と商人の力を利用した政策がもたらした、豪華・華麗な文化や生活に根ざした文化の広がりを生徒から引き出した。

5 おわりに

授業の導入において、効果的な資料を提示し、授業内容への意欲・関心を高めていきたいと考えた。また、生徒の中でもこの時代に興味を持つものが多い。そのため、多くの知識を持っている生徒が、前の時代から次の時代へどのように、どんなことがきっかけで、変化していったのかを考え、歴史の流れをつかませたいと思いこの授業案を考えた。